

会議の概要

1 会議名	平成29年度第2回文化財審議会
2 開催日時	平成30年2月15日(水) 10時00分～11時30分
3 開催場所	南口会館
4 出席委員 [■出席 □欠席]	■足立委員 ■森委員 ■永田委員 ■喜多委員 ■橋本委員 ■服部委員 ■竹内委員
5 傍聴者数	0 人
6 公開の可否	■ 可 □ 不可 □一部不可
7 議題及び結果の概要	◆ 旧山田家住宅現地見学 ◆ 報告 (1) 大阪大学による万籟山古墳調査計画について (2) 中筋山手東古墳群1・3号墳の進捗状況について (3) 安倉北5丁目区画整理事業に伴う試掘調査計画について (4) 雲雀丘地区の登録文化財について

平成29年度 第2回文化財審議会 議事要旨

旧山田家住宅感想

(委員)

民家のなごりが残っているが近代の和風建築。北側に座敷がある不思議な間取りで南北が逆転した造りになっている。何より水回り一式が残っているのが、震災後に阪神間ではこのような近代和風建築は激変しており、貴重である。建物自身は近代ライフスタイルの展示場でもあり、適切な修理をして開放すれば、お茶や集会などにも使える。唯一変わっているのが台所で、もともとは土間で、食堂が板の間だったと思う。

(委員)

チリメンガシなどの貴重な植物が多数あるが、雑草が多く生えていて特にツツジが弱っている。雑草や外来種の除去が早急に望まれる。

(委員)

1階にある個々の民具は特に特徴的なものはない。仏間の仏壇は、地蔵の厨子である。神棚の位置がきちっと残っているので、建物と一緒に残してほしい。二階に置いてあるものを一度おろし、どれを残すべきか判断したい。民俗は一体として残すべきだと考えている。

(委員)

建物自体は、周囲の景観に非常にうまくおさまっている。美術作品については、書画・軸物を全部集めて、美術的な物の分類が望まれる。書籍も公開の際には、書棚とかに入れると雰囲気が出る。

(委員)

建物自体が湿気を帯びているので、中に置いてあるものは移動させた方がよい。湊川神社史など湊川神社関係の資料が残っており、何かつながりがあったのではないかと後世の人がわかるように保管すべき。

(委員)

建物・メインの庭をなぜ北側に建てたのか、建て方に疑問がある。庭木が大きくなりすぎており、手入れすることで庭の景観が改善されるのかが懸念される。建物の中に生活用具が非常に多いので、書籍は移管して整理するのが望ましい。他の生活用具も順位を決めて要不要を決めていくことになるが、非常に時間がかかる。

(委員)

将来的にどのように活用していくかが重要。個人の住宅なので、あまり大人数が入って利用するような構造にはなっていない。日常的な管理については、地域にある程度の利用

を認めながら、任せの方がよい。整理については、学生の実習として、学生の協力を得ることも考えられる。

(委員)

塀が傷んでいるが、近隣からの指摘はないのか。塀の傷み自身は現在では問題ないが、それを見て倒壊の心配をする人もいる。

(事務局)

空き家ということで心配される声はあるが、塀に関しては、近隣住民からの指摘は受けていない。

(1) 大阪大学による万籟山古墳調査計画について

2月26日から始まる発掘調査計画について説明。

(委員)

南側は石のラインがしっかり出ているが、北側の裾がわかりにくいので、今年度は県の許可が出れば2か所調査をするということ。

(2) 中筋山手東古墳群1・3号墳の進捗状況について

1月11日から調査をしており、現在調査中であるため、調査報告については次回の審議会で行う。2月中に終わる予定である。調査範囲について説明。

(3) 安倉北5丁目区画整理事業に伴う試掘調査計画について

現在、区画整理の案があがっており、近隣に遺跡があることから試掘調査を行う予定で国庫補助金を利用し実施する。

(委員)

水路の記録等は必ず行う必要がある。阪神間ではこのような昔ながらの場所は珍しい。

(委員)

区画整理はこれまで本当になかったのか？具体的な区画整理の日程は？

(事務局)

区画整理は今回が初めて。組合を立ち上げてからになるので、現時点で具体的にいつになるかの情報はない。包蔵地としての確定はしていないが、遺跡が近隣にあることから試掘を行う。

(委員)

区画整理されていないところは、昔の野草が残っている。

(委員)

包蔵地については、開発者責任ではないのか。

(委員)

事前調査段階の坪掘りは公がやっているようである。現実に遺物が出てくれば、開発者負担になる。

(4) 雲雀丘地区の登録文化財について

進捗状況を説明。4件のうち1件が登録手続きは保留の意向を示され、文化庁の実査については残り3件を進めている。